



We Serve

私たちは愛情と思いやりをもって世界中の地域社会で奉仕をします。無私無欲の心で自らの時間と労力をささげることこそがライオンズを特別な存在たらしめるのです。私たちは人のために尽くしたからといって何か見返りを求めたりはしません。それなのにとても多くのものを得ます。私たちの奉仕は、大きな困難を前にしていても、希望とつながりをもたらしめます。そして、私たちの仲間になるよう世界に誘いかけます。私たちは心からの奉仕にかけがえのない喜びを感じます。

心からの奉仕を

奉仕への思い。

国際会長 ダグラス X. アレキサンダー



ライオンズは一つの家族。奉仕の心という純然たるものさえあれば誰でも仲間になれる、非常に大きなグローバルな家族です。これらが、私たちの第105代目国際会長であるダグラスX.アレキサンダーの気持ちです。そして、37年もの輝かしいライオン歴があり、偶然にもきょうだいが8人もいる彼ほど、奉仕に尽くす国際的な家族を率いるのにふさわしい人はいないのではないでしょうか？

ニューヨークのブルックリンで生まれ育ったアレキサンダー国際会長は、1984年以来、ブルックリン・ベッドフォードスタイベサント・ライオンズクラブの会員として地域社会に奉仕してきました。多くのライオン同様、奉仕に対する彼の思いは若いころに芽生え始めました。地元の食料品店で働いていた彼は、勤務時間の合間に地域の人々を助けたものでした。お金にはなりませんが、はるかに価値のあるもの、つまり地域の人々の謝意と敬意を得ました。最もやりがいを感じたのはこの無私の奉仕でした。そしてそれが今も彼がしっかりと抱いている信念につながっています。見返りを求めることのない利他的な心からの奉仕は、誰かの人生を変える機会という、人類への最大の贈り物です。



ライオン・アレキサンダーが国際会長職へと歩んできた道のりは、いろいろな意味で、国際的なビジネスマンとしての彼の成功をそのまま映し出しています。銀行の出納係として金融業界でのキャリアを積み始めた彼は、粘り強く、一生懸命働き、仕事への情熱を燃やせば、最終的には万事うまくいくことを理解していました。数十年後、彼はJPモルガン・チェース銀行の副社長として定年を迎えました。

こうした粘り強さ、ひたむきさ、情熱という特質、そして家庭を第一にする彼の考え方が、彼を並外れたライオンに育て上げ、これからの1年間、私たちの偉大な協会を率いるにふさわしい人物にしたのです。





奉仕の鼓動。

**心のこもった奉仕を通じて
地域社会とのつながりを。**

奉仕に献身するこの家族をこれほど唯一無二の存在にするのは、止まることのない私たちの成長です。私たちの扉は常に開け放たれており、ライオンズに参加したい人たちに誘いかけています。

私たちは、人々が奉仕へのその思いを満たす場所であり、彼らが温かく迎え入れられる場所です。私たちは、誰よりも大きなもの、つまり無私の人助けに参加するチャンスをすべての人に提供します。

けれども私たちの国際的な団体を描き出す際に時として見えないのは、この集団を成す個々の人々です。私たちは48,000のクラブと140万人の会員を誇らしく思っています。それゆえに、こうした数を用いて私たちの奉仕とグローバルコミュニティの規模の大きさを示します。

今年度、私たちの成功を導く最も重要な要素は、あなたであることを忘れないでください。あなた、そして一人ひとりのライオンが、集団として私たちが成功す

るためには絶対になくなくてはならない存在なのです。あなたは奉仕の鼓動です。今年度のメッセージ「心からの奉仕」は、私たちをライオンズクラブ国際協会に参加しようと思わせたもの、つまり、私たちの「心」をつねに忘れないリーダーたれとすべての地区、クラブ、ライオンに呼びかけるものです。奉仕への私たちの情熱を燃やして力を合わせれば、私たちに成し遂げられないことなど絶対はありません。



ライオンの心。 真に奉仕にひたむきになるとき。

誰の人生にも決定的な瞬間があります。ライオンになったときのことを誰かに尋ねてみてください。たいていの場合、話してくれるのはクラブに入会した日のことではなく、奉仕が完全に自分の心に深く根付いたときのことを話してくれるでしょう。

1980年代後半、金融業界の専門職に就いていた前途有望なある若者は、地元のライオンズクラブに入会することを決めました。彼は同僚から何度も誘いを受けており、ついに加わることを決めたのでした。行動力のある彼は、ライオンズが実際に地域社会に真の違いをもたらしていることを好ましく思っていました。そして入会後は、毎月毎月例会に出席し、奉仕事業を支援しました。

11月になり、感謝祭が近づくと、彼のクラブは、祭日をお祝いする食べ物を地元の貧しい家庭に届ける毎年恒例の奉仕を行いました。彼が次々とドアをノックして食べ物の詰まったかごを配っているうちに、それを受け取った人たちの笑顔や喜びが彼を変え始めました。それは懐かしくもあり、初めての感覚でもありました。

そして決定的な瞬間が来たのはそのあとでした。彼は食べ物の詰まったかごを手に、近所のアパートの廊下を歩いていき、ドアをノックしました。開いたドアの向こうには母親の姿がありました。自分の家族へのライオンズの思いやりと差し出された食べ物に、彼女は今にも泣きだしそうでした。

彼女はそっと言いました。「私たち家族のためにこのようなことをしてくれた人はこれまでいませんでした。ありがとうございます」と。

それからでした。もちろん彼はこれまでどおり人の息子であり、きょうだいであり、父親であることに変わりありませんでしたが、同時に真のライオンになったのです。そして今、30年以上奉仕をしてきた後に私たちの第105代目国際会長となったのがその人、ダグラスX. アレキサンダーです。





成功を目指す。

2021～2022年度のグローバル優先項目

会員を増やし奉仕に引き込む

私たちの協会の成長は、私たちがいつでも奉仕する準備ができていたことを意味します。成長するためには、単に新しい会員をクラブに入れるだけではなく、現在いる会員も積極的に関与させ続ける必要があります。会員を増やすには、一人失うたびに、さらに二人を誘い入れなければなりません。そしてそれ以上に、すべての会員を活動に引き込み、一人ひとりがそれぞれ思い入れのある奉仕を実行できるようにしなければなりません。

私たちの国際財団を支援する

今年度は、ライオンズ史上最も野心的な資金獲得キャンペーンであるキャンペーン100の最後の年です。LCIFの惜しみない支援が、世界中で私たちが行う奉仕に力を与え、希望をもたらしています。ですから私たちの奉仕への思いを行動に移して、3億ドルを集めるという私たちの目標を達成できるよう、ライオンズのグローバルな財団を支援しようではありませんか。

思いやりに満ちた奉仕

世界中の地域社会が再び平常を見出そうとしている中で、ライオンズには模範となってリードする新たな素晴らしい機会があります。多くの人々が今なお大変な思いをしているときに、私たちは世界が日常を取り戻せるよう手助けをすることができます。私たちは、状況がいつなるとき変わるかわからないことを認識した上で、過去1年間の革新的な奉仕活動をそのまま続け、活動をさらに広げて現状のニーズに対応する必要があります。

コミュニケーション

透明性がありいつでも自由にコミュニケーションをとれることは、優れた奉仕に不可欠であり、それゆえにライオンズクラブにとって常に重要なものとなっています。私たちは、互いとのつながり、私たちの奉仕の受益者とのつながり、そして私たちを支援してくれる組織とのつながりをこれからも重視しなければなりません。私たちは世界中に仲間がいる力強いグローバルなコミュニティを持つライオンズであるからこそ、その仲間から学んだり支援をしたりすることができるのです。今こそ、私たちの奉仕のネットワークを頼りにするときです。



私たちの心が道を示してくれます。

今この瞬間に奉仕を。

この1年、世界は多くの苦難を経験しました。ライオンズとして私たちは、各地域社会が空前の事態において役目を果たすための安全な方法を見出す手助けをしました。私たちはいつも行ってきたように、助けを必要としている無数の人々と地域社会の希望の光となり、斬新で画期的な方法で奉仕することによってニーズに応えました。

世界は絶えず変化しています。だからこそ私たちは最近起こったことを教訓としなければなりません。私たちは、メンバーそして奉仕を受ける人々の健康と安全を何よりも優先することの重要性をじかに体験しました。それだけでなく、昨年度はクラブ内から創意工夫を凝らした革新的なアイデアが生み出された年でもありました。バーチャル会議、ウェビナー、安全な方法による奉仕などなど、ライオンズはこの1年間、つな

がるための新しいアイデアややり方を考え出してきたのです。引き続き安全に奉仕をしていきましょう。それと同時に、いっそう強いつながりを築き大きな成果を出すのに役立つ斬新なアイデアと最新技術を活用し続けましょう。

心に従ってリードする。140万人を超えるライオンズの会員一人ひとりが、一緒に奉仕してくれる人を毎年一人クラブに誘い入れたら、私たちは1年の間に会員数を2倍以上にすることができるだけなく、奉仕の

インパクトを2倍にすることも可能になります。それは野心的な目標であるとはいえ、すべては、クラブの会員一人ひとりを積極的に関与させることから始まります。これは有意義な方法で率先して貢献する機会を提供するという意味を意味します。ライオンズの活動に満足しているメンバーは、自然と他の人を誘いたいという気持ちになるはずです。どのライオンも、奉仕することへの熱い思いをもって協会の一員となります。ですから、奉仕へのその情熱が、未永く力強く燃え続けるよう、全力を尽くそうではありませんか。

心
からの奉仕が
進むべき道を示してくれます



Lions Clubs International